

2018年1月 手術学会@京都 レポート

1月26日、京都で行われた手術学会のインストラクションコースでオーガナイザーをさせて頂き、広島県福山市の三好先生、京都市の大内先生と共に、白内障手術時に用いるCCCマーカー（藤本が2002年に学会発表して作成し、現在イギリスのダックワース&ケント社やイナミ社、はんだや社などで世界中で販売されている）の有用性について、「CCCマーカーであなともプレミアム白内障手術を～」というタイトルで講演しました。

眼の中に入れる眼内レンズの長期安定性、後発白内障の予防、多焦点レンズや乱視矯正レンズなどのセンタリング保持、度数の安定性など様々なメリットがある手術を行うことができる手術器具です。

参加された先生方とディスカッションも交え、内容のある講演でした。

以下、藤本院長が聴講した講演内容をまとめてみました。

1. AIを用いたディープラーニングと熟練眼科医の眼底所見独英正解率：AIのほうが短時間に97%の正解率で、3名の眼科医たちは80%~95%と時間を要し正解率も少し低いという結果でしたが、AIも100%ではないということなので、完全に信頼できるわけではない、という印象でした。大多数の検診のレ線や写真読影などは、AIがはるかに効率的かと思いました。

2. 白内障手術テクニック（ランチョン）では、大阪赤十字病院の秋山先生が、後囊破損時の核片処理でIOLインジェクターのカートリッジを挿入して核摘

出を行われ、good idea！と感心しました。

3. CTR : The lording of the Rings では、CCC時にチン氏帯が弱いと、CTR (カプセルテンションリング) を挿入して超音波時やレンズ挿入のレンズの変位を防ぎますが、稀に数年後そのまま落下することがあるので、かなりゆるい場合は縫着用CTRで縫合またはレンズを縫着しましょう、という内容で、当院でも、CTR挿入後数年で落下や半落ちしたケースが数例あり、日帰りで硝子体手術+CTR摘出+縫着術、を行って整復しております。また、挿入時に嚢に力を加えずに挿入する方法として、まず、外れているところにCTRの先端を入れ、眼内でCTRを2手法で蚊取り線香のようにぐるぐる巻きにして、挿入する方法を福井日赤に小堀先生がお話され、とても興味深かったです。

4. ORA : アルコン波面収差解析装置、手術時超音波後に計測し、眼内レンズ度数を決定するシステムで、より正確な度数を選択する器械ですが、眼内圧の変動などで誤差があり、術前検査データと異なることもあるので、選択決定に迷うこともあるようです。

Zeissの新しいIOLマスターでは、角膜前後面データが検査できバレット式という新しい計算ソフトがあるようで、こちらでもより術後の屈折誤差が減るといわれています。現在、カシアIIとOPD, IOLマスターを用いて、IOL度数をSRK-TとHeigisとで計算し、ばらつきがないことを確認して使用しております。

当院では、単焦点レンズでの入替えは少ないですが、稀に、マルチで予測度数よりずれる場合は、1~3ヶ月で入替え手術を行います。この場合、コンプリートCCCならヒーロンVできれいにレンズをはがし入れ替えが簡単です。乱視があるとレーシックやPRKが適しているので、こちらを選択します。(白内障手術後の患者様には、特別に片眼7万円で行っています)

5. アルコンのベリオン、Zeissのカリストアイ、が手術顕微鏡内にCCCマークや乱視軸が投影され、見ながら手術できるという器械が発売されています。

6. マルチ挿入術を受けられた眼科医の発表も興味深く、問題なく顕微鏡手術もしておられるようですが、細かいところは探すのにじみや眩しさはあるようです。しかし、術前に白内障や乱視、老視などがあったことを思えば、術後は改善されており、受けてよかったのでは、という感じでした。

最近、当院で使用するマルチの種類は先進医療でも完全自費でも増えており、どのタイプを使用するか、お一人ずつの術前の状態や瞳孔径で選択しております

す。又2月から、新しく **mini well** という屈折型だけど遠中近見え、しかも収差が殆どないというイタリア製のレンズを使用する予定です。

7. 強膜内固定手術：最近は縫着手術よりも内固定が流行っています。縫着の場合、糸の経年劣化で外れることがあり、またレンズのぐらつきを防ぐために強膜固定がよいようです。

8. 斜視とBOTOX治療：残念ながら聴講できませんでしたが、手術するほどひどくない斜視には、ずれている側の直筋にボトックスを注射し、緩める方法で、3~6ヶ月で行っているうちに、徐々に軽快していくことがあるようです。また、間欠性斜視にも有効と記載がありました。

日々進化する医療を、しっかり学び、患者様によりよい医療を安全に提供し、術後更に高い満足度を目指していきたいと思えます。